

**決算説明資料
(2020年度)**

2021年 6月 4日



2020年度 決算概要

2020年度の総括

●当事業年度におけるわが国経済は、新型コロナウイルス感染拡大により社会経済活動が抑制される等、深刻な打撃を受けたスタートとなりましたが、その後、順調な回復を続ける中国・米国等の海外経済を背景に、製造業は緩やかな持ち直しが継続しました。

●このような事業環境の中、呼吸用保護具を中心に労働安全衛生保護具を供給している当社は、主要顧客である製造業からの受注が景気減速の影響を大きく受けることも無く、また、新型コロナウイルス感染症対策として、使い捨て式防じんマスクや保護衣等の受注が年度をとおして高水準で推移したことから、製品売上高は過去2番目となる84億2百万円、商品売上高は過去最高となる42億97百万円となり、売上高全体では前事業年度比9.5%増の126億99百万円と、過去最高の業績を収めました。

●利益面につきましても、製品・商品とも売上高の大幅な増加により、製品原価率及び商品原価率とも好転し、売上総利益は前事業年度比17.8%増の40億89百万円となりました。

●販売費及び一般管理費につきましても、従来の営業活動方法を見直したことによる諸経費削減が奏功したことで、全体としては1億3百万円増加の32億66百万円と前事業年度比で3.3%増に留めることが出来ました。

●以上の結果、営業利益は前事業年度比167.7%増の8億23百万円（前事業年度3億7百万円）、経常利益は168.5%増の8億59百万円（前事業年度3億20百万円）、当期純利益は144.8%増の6億51百万円（前事業年度2億65百万円）の大幅な増収増益決算となりました。

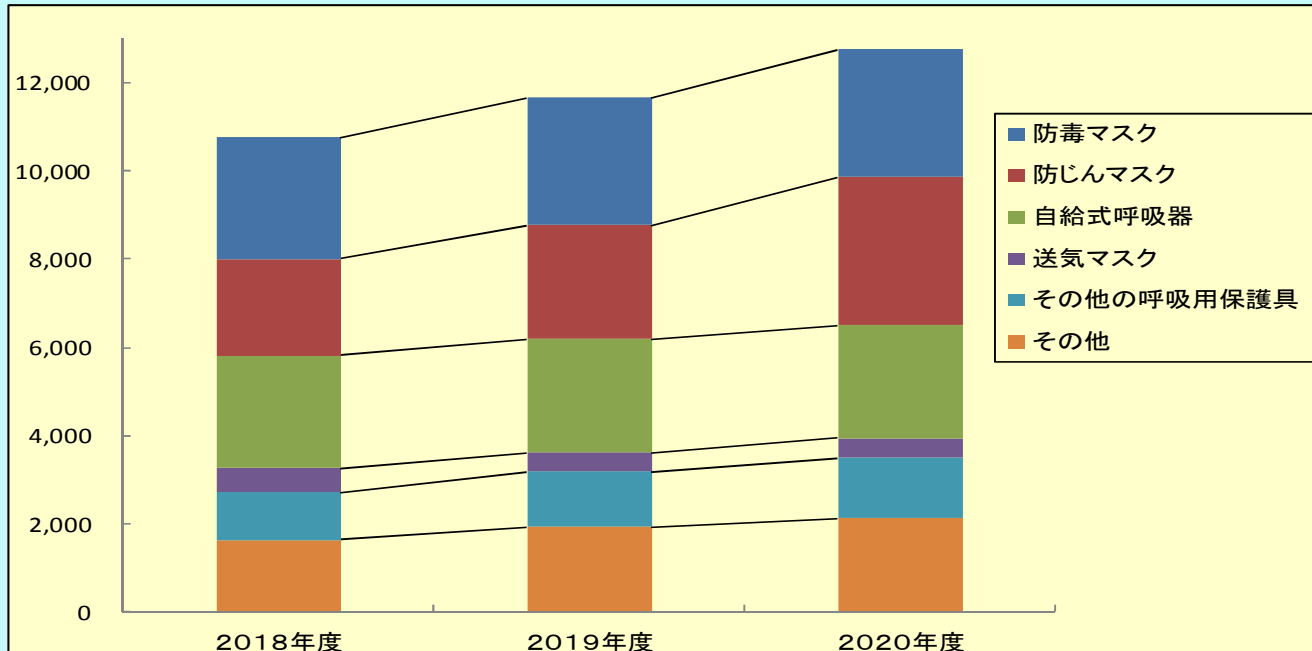
2020年度 損益の状況

(単位：百万円、小数点以下第2位四捨五入)

	2018年度	2019年度	2020年度		
			実績	前々期比 増減	前期比 増減
売上高	10,747.8	11,597.0	12,700.0	1,952.2	1,103.0
製品製造原価	4,927.7	5,142.0	5,617.9	690.2	475.8
商品原価	2,697.3	2,984.7	2,993.0	295.7	8.3
売上原価	7,625.0	8,126.7	8,610.9	985.9	484.2
売上総利益	3,122.7	3,470.3	4,089.1	966.4	618.8
販売費及び一般管理費	3,030.3	3,162.9	3,266.0	235.8	103.2
営業利益	92.5	307.4	823.1	730.6	515.7
営業外収益	62.5	66.5	91.1	28.5	24.5
営業外費用	64.1	53.9	54.8	△ 9.3	0.9
経常利益	90.9	320.1	859.3	768.4	539.3
特別利益	0.0	36.7	0.0	0.0	△ 36.7
特別損失	11.0	10.2	10.0	△ 1.0	△ 0.2
税引前当期純利益	79.9	346.6	849.3	769.4	502.8
法人税等	12.0	95.5	286.7	274.7	191.1
法人税等調整額	21.1	△ 14.9	△ 88.4	△ 109.5	△ 73.5
当期純利益	46.8	265.9	651.1	604.3	385.1

セグメント別売上高推移

(単位：百万円)



(単位：百万円、小数点以下第2位四捨五入)

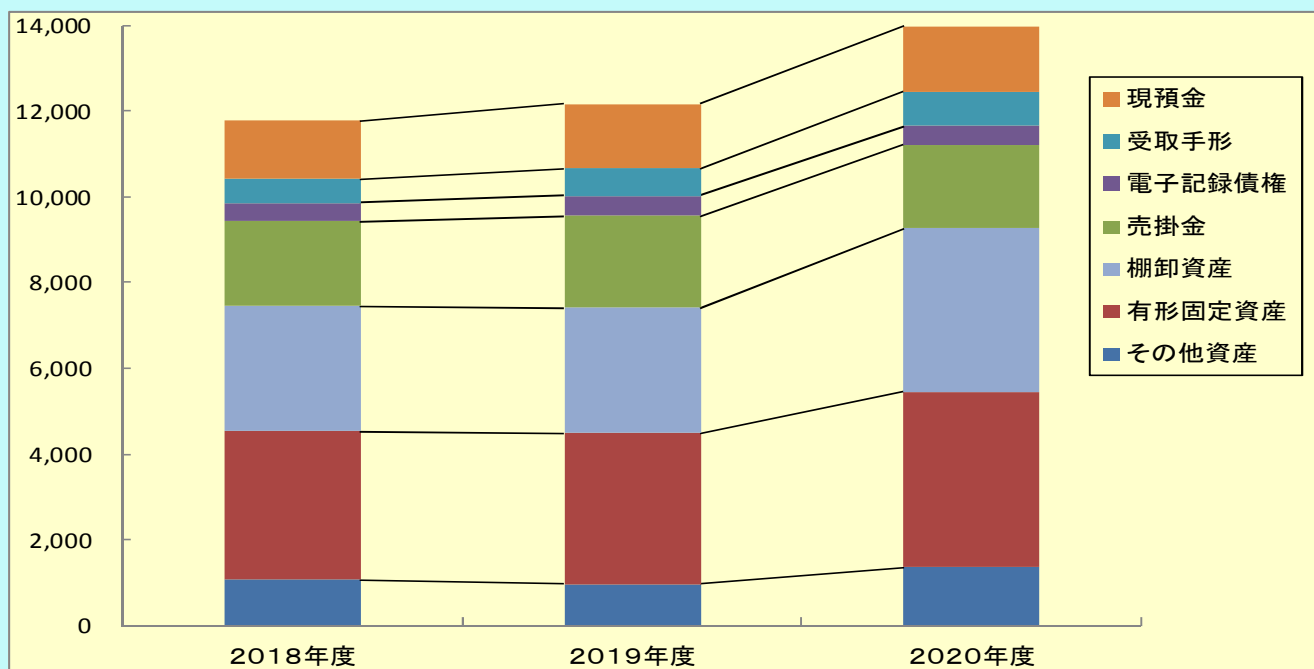
	2018年度	2019年度	2020年度
防毒マスク	2,742.8	2,833.0	2,833.0
防じんマスク	2,186.4	2,577.3	3,358.6
自給式呼吸器	2,549.1	2,575.1	2,565.5
送気マスク	550.3	424.8	440.4
その他の呼吸用保護具	1,083.1	1,255.7	1,380.7
その他	1,636.0	1,931.2	2,121.8
合計	10,747.8	11,597.0	12,700.0

当年度の特徴

- ① 当年度のわが国の経済は、新型コロナウイルス感染拡大により深刻な打撃を受けたスタートとなりましたが、順調な回復を続ける米中等の海外経済を背景に、製造業は緩やかな持ち直しが継続しました。
- ② このような環境の中、製造業からの受注が景気減速の影響を大きく受けることも無かったことに加え、新型コロナウイルス感染症対策として、防じんマスクや保護衣の受注が急増したため、売上高は、前年度比11億3百万円の増加となりました。
- ③ 主要品目別では、防毒マスク、送気マスクはほぼ前年並みの売上でありましたが、防じんマスクが前年度比で7億81百万円、その他の呼吸用保護具も1億25百万円の増加となりました。
- ④ また、その他項目では、保護衣等を中心に、前年度比1億90百万円の増加となりました。

主要資産状況推移

(単位：百万円)



(単位：百万円、小数点以下第2位四捨五入)

	2018年度	2019年度	2020年度
現預金	1,353.5	1,495.9	1,526.5
受取手形	555.7	643.1	803.2
電子記録債権	429.6	463.9	439.7
売掛金	1,992.1	2,152.9	1,947.4
棚卸資産	2,922.4	2,909.4	3,809.4
有形固定資産	3,455.7	3,519.7	4,109.7
その他資産	1,063.5	971.6	1,348.5
合計	11,772.5	12,156.6	13,984.4

注：○本表における受取手形には、債権売却手形（資金化分）は、簿外のため含まれていません。

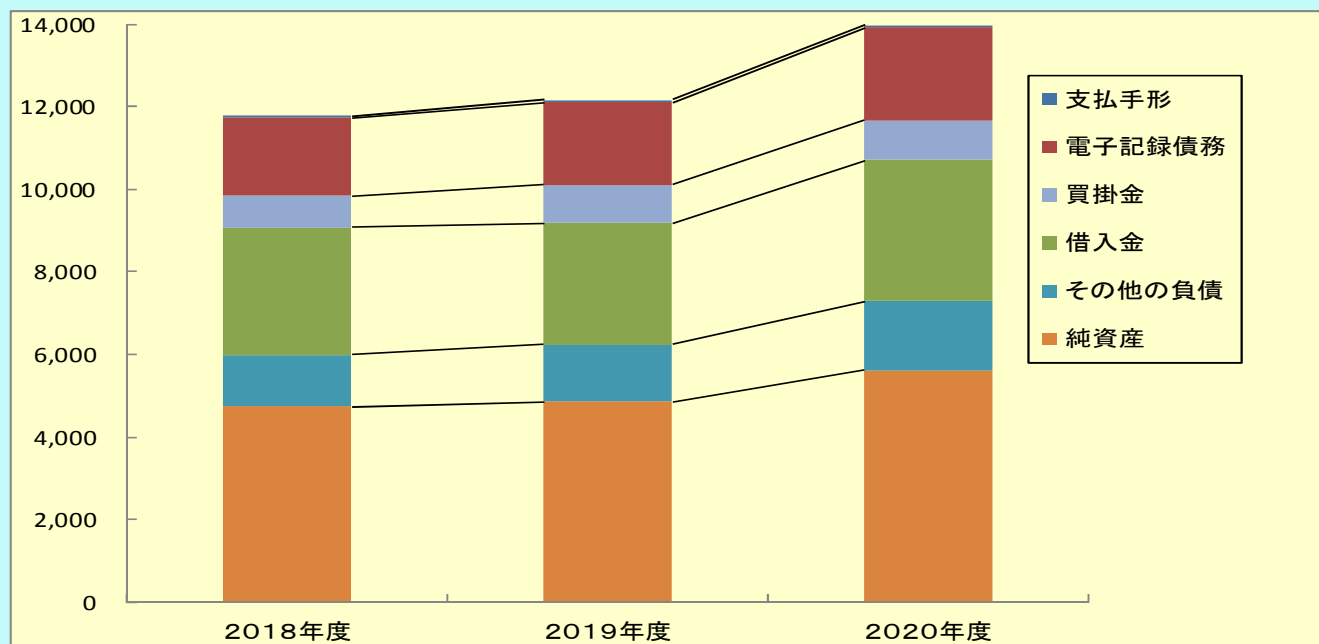
○2018年度から「税効果会計基準の一部改正」等を適用し、過年度への計数修正を行っております。

当年度の特徴

- ① 現預金の残高は、前年度末比で31百万円増加しましたが、これは通常の変動の範囲内にあるものです。
- ② 新型コロナウイルス感染症対策保護具の受注が第4四半期に急増した前期に比べ、売上債権（受取手形＋電子記録債権＋売掛金）残高は、70百万円の減少となりました。
- ③ 高水準で推移した受注に対応するため、棚卸資産全体では、前年度末比9億円の大幅増加となりました。
- ④ 有形固定資産は、新型コロナウイルス感染症対策用の使い捨て式防じんマスクの受注等に対応して、生産能力増強のための設備投資に加え、新製品を中心とした金型投資等もあり、全体では5億90百万円増加となりました。
- ⑤ その他資産は、株式市況の好転を受けた保管株式の株価上昇により、投資有価証券が2億56百万円増加したことを主因として、全体では3億77百万円の増加となりました。

主要負債・純資産状況推移

(単位：百万円)



(単位：百万円、小数点以下第2位四捨五入)

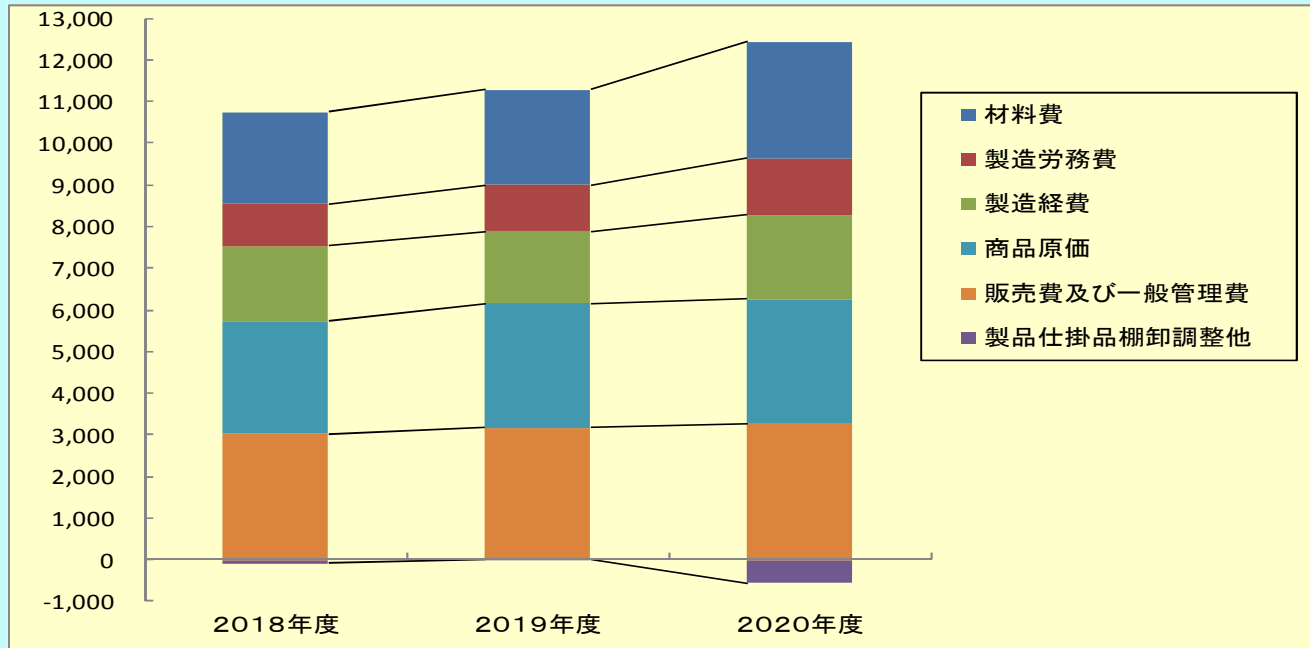
	2018年度	2019年度	2020年度
支払手形	35.4	53.9	61.7
電子記録債務	1,908.8	1,987.4	2,249.0
買掛金	756.2	943.8	977.9
借入金	3,090.0	2,940.0	3,420.0
その他の負債	1,246.5	1,369.5	1,656.6
純資産	4,735.6	4,861.9	5,619.2
合計	11,772.5	12,156.6	13,984.4

当年度の特徴

- ① 製品売上高の大幅増加に伴う材料仕入の増加により、支払債務（支払手形＋電子記録債務＋買掛金）は、前年度末比で3億4百万円増加しました。
- ② 大幅な売上増に伴う運転資金の増加に加え、生産能力増強のための設備投資等もあり、借入金の残高は、前年度末比で4億80百万円増加しました。
- ③ その他の負債は、未払費用、未払法人税等が増加した結果、全体では前年度末比で2億87百万円増加しました。
- ④ 純資産の残高は、繰越利益剰余金が5億80百万円、有価証券評価差額金が1億77百万円増加し、前年度末比では7億57百万円増の56億19百万円となりました。
この結果、自己資本比率は40.2%と、ほぼ前期並みの水準を維持しています。

売上原価・販売管理費推移

(単位：百万円)



(単位：百万円、小数点以下第2位四捨五入)

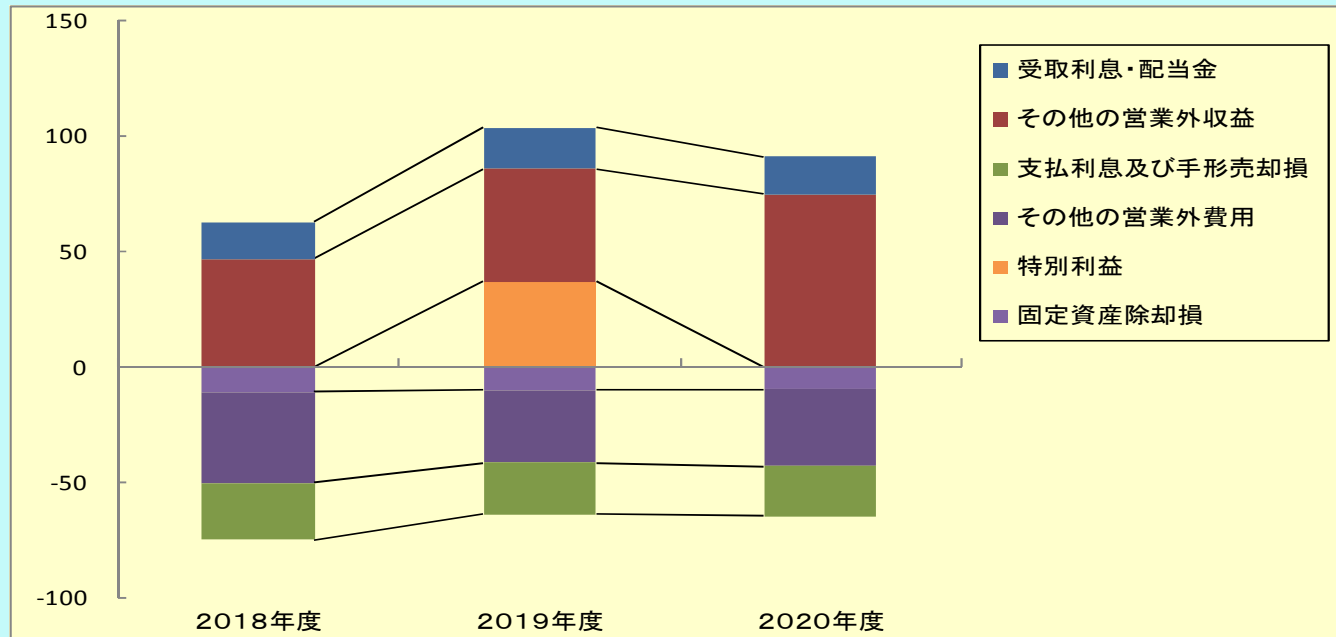
	2018年度	2019年度	2020年度
材料費	2,201.7	2,294.2	2,790.5
製造労務費	1,010.7	1,101.5	1,374.7
製造経費	1,806.6	1,731.9	2,013.4
製品仕掛品棚卸調整他	△ 91.3	14.4	△ 560.7
商品原価	2,697.3	2,984.7	2,993.0
販売費及び一般管理費	3,030.3	3,162.9	3,266.0
合計	10,655.3	11,289.6	11,876.9

当年度の特徴

- ① 製品売上高の大幅増加もあり、製品原価率は、前年度比1.6ポイントの改善となりました。
 - ・材料費は、前年度比で4億96百万円の大幅な増加となりました。
 - ・年度をとおして高水準で推移した新型コロナウイルス感染症対策の使い捨て式防じんマスクの受注に対応した結果、製造労務費は2億73百万円の増加となりました。
 - ・製造経費も、外注加工費、減価償却費、修繕費の増加を中心に、前年度比で2億81百万円の増加となりました。
- ② 過去最高の商品売上高により、商品原価率は、前年度比3.3ポイントの改善となりました。
- ③ 販売費及び一般管理費は、大幅な売上増にも拘わらず、従来の営業活動方法の見直し等により、前年度比で1億3百万円の増加に留めることが出来ました。

営業外・特別損益推移

(単位：百万円)



当年度の特徴

- ① その他の営業外収益は、前年度比で、受取ロイヤリティが18百万円、仕入現金割引が2百万円の増加となったことから、全体では26百万円の増加となりました。
- ② 借入金が増加しているにもかかわらず、金利水準の低位安定を背景に、支払利息及び手形売却損は、前年度比1百万円の減少となりました。
- ③ 特別利益として計上するものは、特にありませんでした。一方、特別損失として、ほぼ前年度並みの固定資産除却損を計上しています。

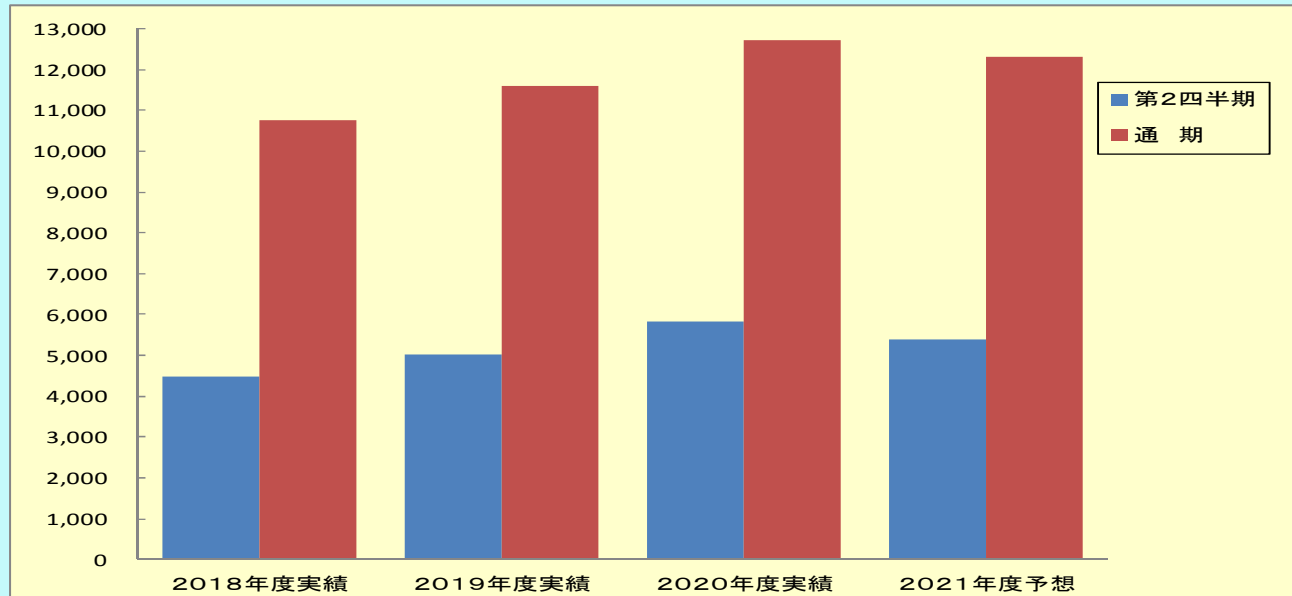
(単位：百万円、小数点以下第2位四捨五入)

		2018年度	2018年度	2019年度
営業外損益	受取利息・配当金	15.9	17.7	16.6
	その他の営業外収益	46.6	48.8	74.4
	支払利息及び手形売却損	△ 24.7	△ 22.5	△ 21.7
	その他の営業外費用	△ 39.4	△ 31.4	△ 33.1
	営業外損益合計	△ 1.6	12.6	36.3
特別損益	特別利益	0.0	36.7	0.0
	固定資産除却損	△ 11.0	△ 10.2	△ 10.0
	特別損益合計	△ 11.0	26.5	△ 10.0

2021年度 業績予想

2021年度の売上予想

(単位：百万円)



(単位：百万円、小数点未満四捨五入)

	2018年度実績	2019年度実績	2020年度実績	2021年度予想
第2四半期	4,491	5,037	5,816	5,400
通期	10,748	11,597	12,700	12,300

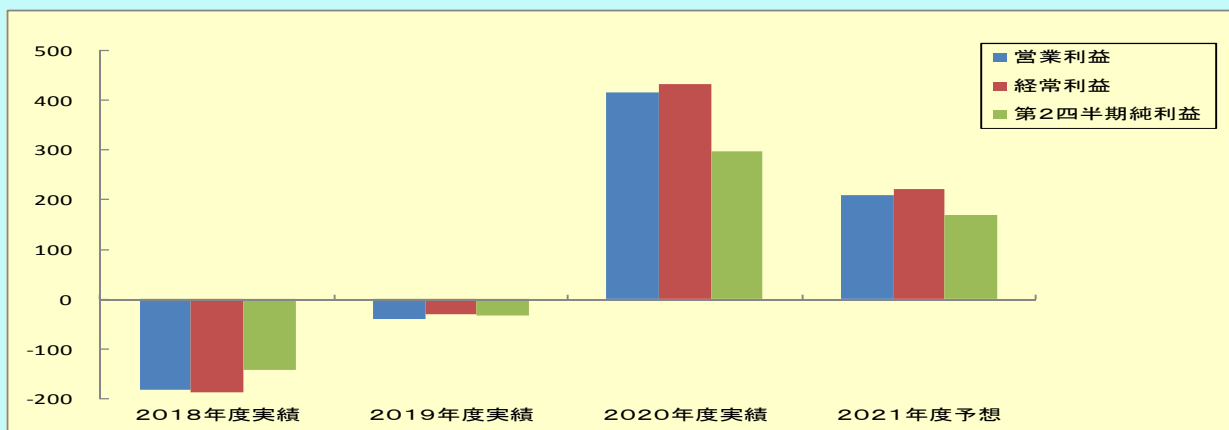
予想のポイント

新型コロナウイルス感染症につきまして、米国・欧州等と比較し、我が国のワクチン接種は思うように進んでおらず、感染力の高い変異株の流行も懸念されるなど、感染拡大の収束は見通せていないのが実情です。また、前年度の最悪期を脱したとはいえ、経済の回復状況も緩やかなままで、引き続き不透明な状況が続くものと思われまます。

このような環境の中、引き続き呼吸用保護具は、新型コロナウイルス感染症対策用として、前年度ほどではないものの、一定以上の受注が見込まれるとともに、主要顧客である製造業からの受注も着実に見込まれると思われまます。

このような諸状況を総合的に勘案し、2021年度の通期売上高は、前年度比4億円減少の123億円を見込んでおります。

2021年度 第2四半期の利益予想 (単位：百万円)



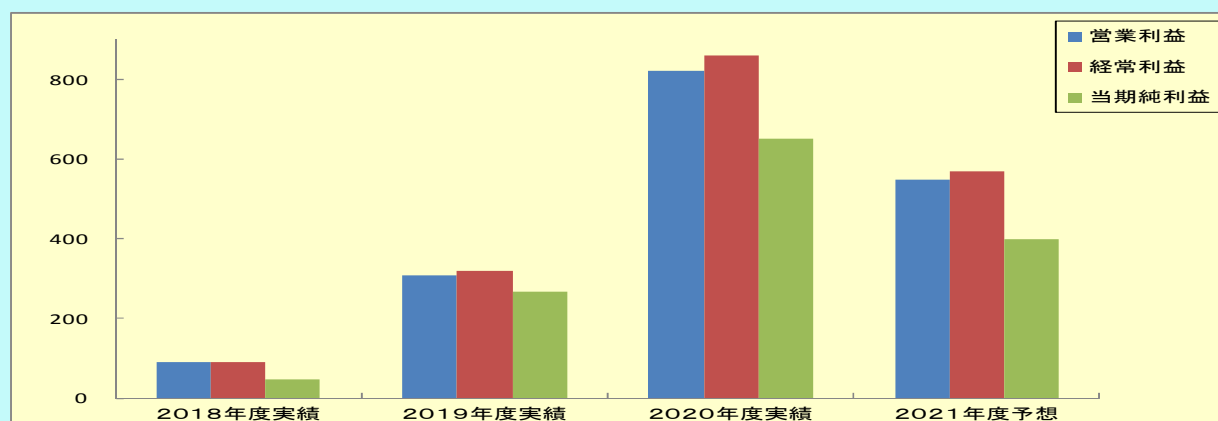
予想のポイント

2021年度第2四半期は、感染拡大対策用保護具の受注が急増した前第2四半期には及ばないものの、一定以上の受注が見込まれることから、相応の営業利益、経常利益、第2四半期純利益の計上を予想しております。

(単位：百万円、小数点未満四捨五入)

	2018年度実績	2019年度実績	2020年度実績	2021年度予想
営業利益	△181	△40	415	210
経常利益	△187	△31	431	220
第2四半期純利益	△142	△33	296	170

2021年度 通期の利益予想 (単位：百万円)



2021年度通期は、製造部門では生産効率の一層の強化・向上を図るとともに、また営業部門では費用対効果の高い効率的な営業活動を積極展開することで、前事業年度に準ずる水準の営業利益、経常利益、当期純利益を見込んでおります。

(単位：百万円、小数点未満四捨五入)

	2018年度実績	2019年度実績	2020年度実績	2021年度予想
営業利益	92	307	823	550
経常利益	91	320	859	570
当期純利益	47	266	651	400